

## 渋沢栄一 in パリ万博

2月20日(土) BSプレミアム 後9:00~10:30

2月から始まる大河ドラマ『青天を衝け』。その主人公、渋沢栄一の活躍の原点とも言える大舞台があった。明治維新直前の1867年、パリで開かれた万国博覧会だ。日本が初めて公式に参加した国際博覧会で、若き日の渋沢は幕府使節団の一員に加わっていた。花の都パリで使節団を待ち受けていたのは、ライバル・薩摩との外交バトル。どちらが日本の代表か、世界にアピールするため、激しい駆け引きとPR合戦が繰り広げられた。

渋沢が任されたのは、会計係だ。滞在先のアパートの賃貸交渉をまとめ上げたり、現地での生活費を稼ぐため、株式投資にチャレンジしたりと、縁の下から幕府使節団を支えることになる。番組ではその奮闘を再現ドラマで描いていく。

そして今回、日本がパリ万博に出品した展示品の撮影にも成功した。スイスのジュネーブに眠っていた巨大黄金屏風。幕府の命を受け、江戸最高峰の絵師集団、狩野派が描き上げた傑作だ。さらには、ライバル・薩摩が幕府を出し抜くために用意した秘密の勲章など、名品に秘められた物語が解き明かされる。

渋沢たちがもたらした展示品によって、日本は世界に認められ、芸術の分野では、ジャポニズムと呼ばれる動きが巻き起こる。政治家、実業家として、近代日本経済の礎を作った渋沢栄一の原点、パリ万博。幕末の一大イベントの舞台裏に迫る。



パリ万博に展示された金屏風



パリで宿泊先を探す渋沢栄一（再現ドラマ・駿河太郎）



ライバル・薩摩がパリで配った勲章